

# 医療安全管理者養成研修開催報告

日本臨床医学リスクマネジメント学会

## ◆当研修(第7回医療安全セミナー)の概要

・日程(全6日)

第1クール：令和元年8月2日(金)、3日(土)、4日(日)

第2クール：同23日(金)、24日(土)、25日(日)

・場所

8/2、3、4、24、25：日本大学駿河台キャンパスお茶の水校舎 C303教室

8/23：日本大学歯学部本館(歯学部附属病院)創設百周年記念講堂

## ◆参加者数

(日別)	8/2	8/3	8/4	8/23	8/24	8/25
人数	47	45	47	48	47	49

(職種別)	医師	看護師	薬剤師	臨床工学技士	病院事務	助産師・他
人数	13	24	12	3	1	3

(組織内役割別)	医療安全管理者	部署の医療安全推進者	組織全体の医療安全推進者	その他
人数	19	14	13	6

(施設規模別)	300床未満	300～599床	600～999床	1000床以上
人数	21	16	12	7

## ◆実施内容

-第1クール1日目：8/2(金)-

時間	10:30-12:00	テーマ	認知心理学から見たヒューマンエラー
講師	筑波大学人間系心理学域 原田悦子		
座学：医療安全と認知心理学、認知工学、使いやすいモノの設計・アフォーダンス、2重のインタフェース理論、システムビューとパーソナルビュー、医療機器・医薬品が関与したヒューマンエラー、多業種と比較した医療現場の特殊性、縦の糸・横の糸の要因、電子カルテ・オーダーリングシステムの効果と問題、人への対策、モノへの対策・リ・デザイン力、具体的にトレード・オフを考えるその他について			

時間	13:00-14:30	テーマ	レジリエントヘルスケア
講師	福島県立医科大学 橋本重厚		
座学：因果信条における単純線形モデルから複雑系モデルへの転換・安全概念のパラダイムシフト、Safety-IとSafety-IIの内容・特徴・差異、創発・共鳴、レジリエンスの概念・構成要素、ヒューマンファクターズ、ノンテクニカルスキル、レジリエンス能力の向上その他について			

時間	14:40-15:40	テーマ	医療の質と安全
講師	昭和大学江東豊洲病院 上條由美		
座学：品質の考えと医療、立場による良質な医療の認識の共通性(安全・安心・安定、継続、信頼)と差による事故(画像診断報告書の確認不足など)、医療の質と安全のプロセス、高難度新規医療技術、院内報告制度(内部通報・相談窓口)、適応外使用・未承認医薬品・院内製剤その他について			

時間	15:40-16:40	テーマ	医療安全と身体拘束
講師	蒔田法律事務所 弁護士 蒔田覚		
座学：医療事故と医療過誤、身体拘束に関する行政通達・法規・裁判例・ガイドライン、法的責任の種類・内容・要件・手続き、裁判上の医療水準・因果関係概念、損害賠償の範囲、転倒転落訴訟事例の分析、介護と医療現場の比較その他について			

時間	16:40-17:40	テーマ	医療安全の基本と活動
講師	埼玉医科大学病院医療安全管理学 中島勸		
座学：医療安全の基本的概念・用語の定義、医療安全の歴史、医師法21条・事故調査制度、医療事故事例の分析、To Err Is Human・医療現場でのヒューマンエラーへの見方、医療安全管理の目的・方策、医療安全体制構築(医療安全管理者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療安全管理指針)、医療安全管理教育研修、情報収集と分析(インシデント報告・アクシデント報告)、対策立案・再発予防・PDCAサイクル、医療事故発生時の対応(発生前の対策、被害者への対応、責任者への報告、患者・家族対応、原因調査)、安全文化(報告・学習・柔軟・公正)の醸成その他について			

-第1クール2日目：8/3(土)-

時間	9:00-13:00	テーマ	Uプロセスを用いた信念対立説明-真のチーム医療の構築を目指して-
講師	埼玉成恵会病院外科 清水広久		
座学・演習：信念対立の問題の複雑性、歪曲レンズの存在、メンタルモデル(思い込みや固定概念といった意識・無意識の前提)の存在、Uプロセス(ありのままを観る、感じる、メンタルモデルを開放する、迎え入れる、具現化・実体化する)を用いた信念対立説明アプローチ、Non-Violent Communication、リアリスティック・アプローチの応用、ITC MAPの利用、Uプロセスへの応用その他について			

時間	14:00-17:00	テーマ	KYT
講師	東京都看護協会 事業部 駒木根由美子		
座学：KYT の定義・歴史・目的・意義、医療と他の産業の差異、危険な要因を見つけ出す能力、KYTの限界、事故防止の視点でのKYT、医療安全5つの技法、P-mSHELLモデル、リスク感性、ヒューマンファクター、5S活動とKYT、ブレインストーミング4原則、KYTのタブー、KYT基礎6ラウンドのすすめ方、指差し呼称、タッチ&コール、健康確認KY、短時間KY、患者家族参加、病棟レベル・個人レベルの短時間KYその他について			
演習：小グループに分かれ、自己紹介をしてチームを構成し、ディスカッション・グループワーク形式にて、イラストをもとに、KYT基礎4ラウンド法を実施し、チーム(グループ)ごとに内容を発表して成果を共有			

時間	17:20-18:20	テーマ	患者を急変させないための新たな医療安全システム～チーム医療の実践～
講師	北里大学病院集中治療センターRST・RRT室 集中ケア認定看護師 森安恵実		
座学：RRSの意義・内容、RRSとコードブルーの比較(要請基準・対象・チーム構成・件数・タイミング・介入)、RRSの実務(アセスメント、前兆の把握、院内システム、要請基準の設定・周知、活動実績データ、課題点の抽出、目標設定、課題への取り組み)その他について			

-第1クール3日目：8/4(日)-

時間	9:00-10:00	テーマ	医薬品の安全管理(医薬品安全管理者の立場から)
講師	東京医科歯科大学医学部附属病院 高橋弘充		
座学	医療安全管理責任者の業務(手順書の作成、研修の実施、手順書に基づく業務、情報収集・周知・指導)、特定機能病院における承認要件見直し、医療法 25 条 1 項の立入検査、病院機能第三者評価、各種マニュアルの管理、薬剤事故事例と情報伝達エラー防止対策、ハイリスク薬、抗菌薬の適正使用、薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン、投薬・注射の適正・安全実施、薬剤管理機能その他について		

時間	10:00-11:30	テーマ	FMEA 概論-頻度と影響度に基づく医療事故対策-
講師	電気通信大学大学院情報理工学研究科 田中健次		
座学	FMEA の位置づけ、再発防止と未然防止、トラブルからのフィードバック、FMEA の定義・概要・種類、故障モードと影響解析、評価法・基準、パレートの原理、作業 FMEA の手順、エラーモードの予測の工夫、ガイドワードの利用、影響度評価、4 段階マトリクス評価法、留意点、対策立案、エラープルーフ化の原理(原因系対策・結果系対策)、検出率、ダブルチェックでのエラーその他について		

時間	12:30-16:30	テーマ	FMEA 演習
講師	電気通信大学大学院情報理工学研究科 田中健次		
演習	小グループに分かれ、ディスカッション・グループワーク形式にて、模擬事例に関し、それぞれ工程表を作成し、評価基準を決定した上、ワークシートを作成して FMEA を実施し、グループごとに内容を発表し共有		

-第2クール1日目：8/23(金)-

時間	10:00-11:30	テーマ	「医療事故調査制度」に則った医療事故発生時の対応・考え方 医療安全施策の動向について
講師	医療事故調査・支援センター/日本医療安全調査機構 木村壯介 厚生労働省医政局総務課医療安全推進室 渡邊顕一郎		
座学：医療事故および医療事故原因究明制度の歴史、医療事故調査制度について(医療事故の定義・判断、調査の流れ・考え方、報告義務、死亡診断書記載、警察への届け出、医療事故調査・支援センターへの相談、医療事故報告件数その他各種データ、医療事故調査の具体的対応(情報収集、診療経過の作成、聞き取り、医学的検証・分析、検証のまとめ方、背景因子の検討、医療事故調査報告書の構成・まとめ方))、支援センターの役割、支援センター調査、国の医療安全施策の経緯、医療安全管理体制に関する法規定、医療事故情報収集等事業、産科医療保障制度、医療安全対策地域連携加算、PMDA 医療安全情報、閣僚級世界患者安全サミット、患者安全に関する東京宣言その他について			

時間	12:30-14:00	テーマ	事故発生時の対応と医療安全
講師	東京都済生会中央病院 医療メディエーター 渡邊両治		
座学：患者の安全確保と治療、院内連絡と報告、患者・家族への説明・気持ち表明、初期対応時記録・物品保管、緊急対応会議、行政への報告の判断、病理解剖、院内調査委員会の設置の判断、患者・家族への対応者の決定、院内調査委員会の進行、関係者へのヒアリング、原因分析、事故報告書の記載、医療当事者のケア、医療メディエーション、インフォームドコンセントその他について			

時間	14:00-15:30	テーマ	死因究明と医療事故調査における解剖の役割
講師	大阪府監察医事務所 吉田謙一		
座学：異状死の定義・考え方、異状死と死因究明制度、くも膜下出血事例から学ぶ画像診断や解剖の意義、原死因と直接死因、法医学上の死因と法的責任、画像診断の利点と限界、死亡診断・死体検案における救急医・看護師の役割、医療裁判の問題点、司法解剖情報の開示の問題、英米圏諸国の死因究明制度その他について			

時間	15:40-17:10	テーマ	M&M カンファレンス
講師	東京医科大学病院医療の質・安全管理学 三島史朗		
座学：M&M 検討会と症例検討会の違い、M&M 検討会の目的・手順、架空事例での M&M 体験(事例の把握、聞き取り重要ポイント、行動科学的要因の抽出、再発防止策、事故未然防止策、病院全体での対応策)その他について			

-第2クール2日目：8/24(土)-

時間	9:00-10:00	テーマ	医療機器の安全な運用 ～医療安全管理室 専従臨床工学技士の立場から～
講師	日本大学医学部附属板橋病院医療安全管理室/臨床工学技士室 中川富美子		
座学：医療機器安全管理責任者、全医療機器の把握、保守点検計画の策定と実施、生命維持管理装置、医療機器の研修(対象機器、目的、形態、進め方、報告書、習慣化)、医療機器・放射線機器管理委員会、医療機器の安全情報の収集と周知、医療機器のトラブルの傾向・原因、医療機器にできること、医療機器が発信する情報の適切な受け止めその他について			

時間	10:00-11:00	テーマ	転倒・転落防止に対するチーム医療
講師	聖路加国際病院リハビリテーション科 理学療法士 岡村大介		
座学：転倒・転落のリスク因子、各種アセスメントツール、防止プログラム、転倒防止のシステム作り・環境作り、各種転倒転落防止用具、チームでの包括的介入(介助方法の指導、病棟との連携)、PDCA サイクルその他について			

時間	11:10-12:10	テーマ	院内感染対策の基本
講師	昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門 時松一成		
座学：院内感染の歴史、院内感染の定義、各種医療関連感染リスク・発生率・問題点、組織対策(院内組織図、対策委員会、対策チーム)、感染防止対策加算、ラウンドとマニュアル、標準予防策、PPE、感染経路別予防策、耐性菌対策、アウトブレイク、院内感染訴訟その他について			

時間	13:10-15:50	テーマ	警報学概論：モニタリング・アラーム管理
講師	日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野 弘仁会板橋病院救急部 古川力丸		
座学：警報学とは、患者の訴えや所見・バイタルサインも含めた医療情報アラーム、モニタリングの利点・欠点、人工呼吸器アラームの解析結果、アラームの特性の理解・目標設定・対処方法の確認、リスクの把握、早期介入、時・人・場所を考慮したアラーム管理、アラーム教育その他について 演習：小グループに分かれ、ディスカッション・グループワーク形式にて、設定事例におけるモニタリングの注意点を検討し、グループごとに内容を発表して共有			

時間	15:50-16:50	テーマ	医師法 21 条と医療安全
講師	駒込たつき法律事務所 弁護士 水谷渉		
演習：医師法 21 条条文の正しい理解と各種裁判例、法医学会ガイドライン、国立病院マニュアル、警察・検察の考え方を踏まえた対応、平成31年医政局通知・応答集その他について			

時間	16:50-17:50	テーマ	災害時の病院 BCP
講師	日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野 櫻井淳		
演習：日本列島の成り立ちと災害、災害拠点病院、改正医療法における災害対策、Business Continuity Plan(BCP)の意味、BCP の作り方(策定体制の構築、各種現状把握、被害想定、通常業務・応急対策業務・優先業務の整理)その他について			

-第2クール3日目：8/25(日)-

時間	9:00-10:30	テーマ	医療安全文化の醸成
講師	東京都看護協会 会長 山元恵子		
座学：医療安全に関する国内外の潮流、医療安全と病院組織・病院理念・責任者の地位、医師からのヒヤリハット報告、地域医療安全交流、医療安全管理者の業務指針、医療事故等の外部報告制度、医療法の変遷、安全文化(報告・正義・柔軟・学習)、医療安全教育の基本、医療安全とリスクマネジメント・クライシスマネジメントその他について			

時間	10:40-12:10	テーマ	事故の構造に基づく分析手法：ImSAFER(講義)
講師	ImSAFER 研究会 シニアインストラクター 鶴見眞理子・鈴木清志		
座学：医療事故調査における分析、ヒューマンエラーの意味、人間行動の法則、ヒューマンエラーの発生メカニズム、心理的空間とマッピング、意思決定の天秤モデル、ImSAFER の特徴・対象と分析レベル・分析の注意点、時系列事象関連図の作成(方法・ポイント・意義)、問題点の抽出、背景要因の探索(なぜなぜ分析)、改善策の列挙・決定・実施・評価、対策と木の根イメージ、ヒューマンファクター工学のモデル、P-mSHELL モデル、患者教育、リスク低減の努力その他について			

時間	13:10-17:10	テーマ	事故の構造に基づく分析手法：ImSAFER(演習)
講師	ImSAFER 研究会 シニアインストラクター 鶴見眞理子・鈴木清志		
演習：小グループに分かれ、ディスカッション・グループワーク形式にて、設定事例で ImSAFER を用い、背景要因を抽出し、なぜなぜ分析をし、改善策を列挙した上で実施すべき改善策を決定し、グループごとに発表して共有			